

気になりませんか？目のおとろえ・・・

信州大学医学部附属病院 眼科 今井 章医師 平林 一貴医師

◆白内障

1 かすんで見える



2 まぶしくなる
明るいところで見えにくい



4 二重、三重に見える



3 一時的に近くが
見えやすくなる
眼鏡が合わなくなる



目はよくカメラに例えられますが、カメラのレンズに相当するのが水晶体です。正常な水晶体は透明で光をよく通しますが、さまざまな原因で水晶体の中身のタンパク質が変性して濁ってくる状態が「白内障」です。

物がかすんだり、二重に見えたり、まぶしく見える、一時的に近くが見えやすくなるなど症状はさまざまですが、進行により視力が低下します。

加齢によって発症する加齢性白内障の頻度が最も高く、70歳を過ぎると有病率は100%になるといわれ、早めの手術をおすすめします。

手術後の視力の上がった状態で生活できる期間が長くなるので、見えにくい状態で長く我慢するよりは、早めの手術が望ましいと考えます。手術時期が早いと再手術が必要になるといったことはありません。

普通車運転免許の更新には眼鏡をかけた状態（矯正視力）で0.7を必要とします。運転免許更新の際に慌てないためにも定期的な視力検査等をおすすめします。



視力が低下して、仕事に支障がある。



外ではまぶしくて、極端に見えづらい。



視力が0.7以下になって、運転免許の更新ができない。

◆緑内障

「**緑内障**」はなんらかの原因で視神経が障害され、視野（物の見える範囲）が狭くなったり、部分的に見えなくなる病気で、眼圧（眼球内の圧力）の上昇がその病因の一つとされています。

自覚症状はほとんどなく、知らないうちに視野が徐々に狭くなっていきます。急性の緑内障では急激に眼圧が上昇し目の痛みや頭痛、吐き気など激しい症状をおこしますが、慢性の緑内障では自覚症状はありません。

40歳以上の20人に1人、70歳以上の10人に1人は緑内障です。この中で治療を受けている方は1割で、残りの9割の方は自分が緑内障であることに気付いていません。慢性緑内障では自覚症状は緑内障の後期になるまで現れないため、定期的な検診による早期発見と治療が大切になります。



イラスト：参天製薬株式会社 提供

◆糖尿病網膜症

糖尿病が原因で起こる目の病気で、血糖値の高い状態が長く続くと血管が傷ついたり詰まったりすることにより視力の低下が起こるのが「**糖尿病網膜症**」です。

失明のリスクも伴う深刻な病気で、日本人における視覚障害原因の第2位です。

糖尿病網膜症も、ご自分で症状が分かる頃には進行した状態となっている場合が多く、症状のない段階で定期的な検査を受けていただき、早期に治療をすることで進行を抑えていく必要があります。

眼科受診間隔の目安

	正常(網膜症なし)	単純網膜症	増殖前網膜症	増殖網膜症
眼の状態				
自覚症状	なし	病変が黄斑部に至らなければ、なし	病変が黄斑部に至らなければ、なし	・黒いものがちらつく ・ゆがんで見える ・軽度から重度の視力障害
受診間隔	6~12か月に1回	3~6か月に1回	1~2か月に1回	2週間~1か月に1回

眼科外来担当医表 受付時間 午前8時~11時30分

	月	火	水	木	金
眼科	信 大	信 大	手術日(月2回)	信 大	信 大

※金曜日のみ受付11:00迄(金曜日の受付時間は、変更する場合があります。お問い合わせください。)

目の症状等でご心配なことがありましたらお伺い致しますので、お気軽にお声がけください。

眼科外来